

OUJ神奈川学習センター なつだより

通巻第63号

2015年7月24日発行

発行:放送大学神奈川学習センター

〒232-0061 横浜市南区大岡2-31-1

url: <http://www.sc.ouj.ac.jp/center/kanagawa/>

tel:045-710-1910 fax:045-710-1914



沖縄美ら海水族館「黒潮の海」(2面に関連記事)

目次	「環境と開発の共生」	所長 池田 龍彦	2~ 3
	面接授業「サンゴとサンゴ礁の化学」		3~ 5
	面接授業「海の動物の観察」		
	面接授業「愛について考える」		
	ベートーベン「第九」を一緒に歌いませんか		6
	平成27年4月 学生生活に関するアンケート		7
	ゼミからのお知らせ		8
	研修旅行学習ノートから「STEEL HISTORY」(中)		8~ 9
	Kーサポートからのお知らせ		9
	学生サークルからのお知らせ／同窓会だより		10~11
学習センターからのお知らせ		12	

神奈川(みなとみらい)



環境と開発の共生

神奈川学習センター所長 池田 龍彦

1. はじめに

神奈川学習センターはみなとまち横浜にあり、また周辺には水産総合研究センター・海洋開発研究機構・港湾空港技術研究所など海を舞台に世界をリードする3つの国立研究開発法人や横浜国立大学統合的海洋教育研究センターが活発に活動し、海と密接に結



沖縄勤務時代の池田所長
(2000年6月)

びついた土地柄に所在しています。このため「海」をテーマにこれらの組織から講師を招き、多くの面接授業を開講しています。今回は、美ら海に浮かぶ沖縄で経験したサンゴと開発の関係について書くことにしましょう。

色とりどりの魚が群れ遊ぶサンゴ礁は生き物の宝庫で、その美しさは人々を水中に駆り立て魅了します。また、サンゴ礁は生物再生産、環境浄化、防災、二酸化炭素の循環等多くの機能を備えた貴重な生態系となっています。青い海とサンゴ礁に囲まれた沖縄で、開発と環境保全の調整の営みが継続的に行われています。

沖縄・那覇港では防波堤を建設する際には、時にはサンゴ礁を破壊することを余儀なくされてきました。しかし、細心の注意を払った計画と施工によって、年月の経過とともにサンゴ礁を蘇らせることに成功し、下の写真にあるようなサンゴ礁が防波堤の外側に復活しています。世界中でサンゴ礁が開発の犠牲になりつつありますが、環境と共生する強い意志と



視点を持った開発行為がなされるべきだと考えます。

2. サンゴ礁地帯での防波堤建設

1972年の沖縄の日本復帰以来、離島県沖縄の玄関である那覇港では、港内に停泊する船舶の安全を確保するために、合計5,300mの防波堤が建設されました。台風来襲時に沖縄周辺では12mを越す高波が発生します。また、冬季の北からの季節風による波も大きく、これらの



波から港を守るために強固な防波堤の建設が必要で、那覇港ばかりではなく沖縄の港の持つ宿命となっています。那覇港の場合はサンゴ礁が発達している海域での港湾建設で、港周辺のサンゴ礁にできるだけ影響を与えないように計画されましたが、防波堤の約三分の一はサンゴ礁上に建設することとなり、防波堤下のサンゴは一時死滅することになりました。

それでも、周辺への影響を最小にするようできるだけ配慮を行ってきました。防波堤の基盤を作る5kg-200kgの基礎石は、サンゴが岩石化した琉球石灰岩を使用し、比較的浅いところではその上に直接コンクリートブロックを、深いところではコンクリートケーソンを設置し、その外側に消波ブロックを置く工法が採用されました。水中でのコンクリート打設を避け、海上で打設する場合でも、海中への濁りやセメントミルクの流出等が起きないように細心の注意を払い、いつの日かコンクリートブロックやケーソンに再びサンゴが戻ってくる日が来ることを期待して、丁寧に施工を行ってきました。

3. サンゴの再生

サンゴの発生メカニズムは、長い時間をかけてゆっくりと成長して行くプロセスです。周辺のサンゴから発出した卵子が浮遊中に受精して幼生となり、新たに設置された構造物に付着するところから全てが始まります。那覇港も、周辺や遠く30km離れた慶良間諸島周辺の広大なサンゴ礁から潮流に乗ってサンゴの幼生が那覇港防波堤にぶつかり、消波ブロックに付着するのではないかと考えられています。夏の満

月の夜にいっせいに卵子を放出するありさまは神秘的と言われていています。それが幼生となって波と潮流に乗って浮遊し、ブロックに付着したサンゴは長い歳月をへて大きく成長します。那覇港ではサンゴの幼生が付着しやすいように、港外側に設置する消波ブロックには細かな凹凸をつけるような工夫も30年前から行っており、その効果が十分に出ていることが確認されています。

私が沖縄の港湾の仕事に携わったのは、1978年からの2年半と1999年からの1年余りの2回でしたが、2回目の沖縄在勤の時は海水温度の僅かな上昇が原因とされている「サンゴの白化現象」が起きた直後でした。人間にとって僅かと感じられても、ストレスに極端に弱いサンゴには急激な変化として認識され、広範囲の現象となっていました。せっかく細心の注意を払って防波堤工事を進めていても、自然界の大きな変化には勝つことはできません。ただ、幸いなことに、その後、白化現象が収まり、那覇港のコンクリートブロックに再生したサンゴが成長している姿を見ることはうれしいものです。

4. 環境との共生

那覇港におけるサンゴ再生の試みは、自然界の力と比べると極めて小さなものかもしれませんが、一度は破壊を余儀なくされた自然環境を再生する目標を立て、さまざまな工夫を凝らした工事の実施と調査は今後とも継続的に行われるべきだと考えます。那覇ではこの他、那覇空港で2本目の滑走路を沖合を埋め立てて建設中で、やはりサンゴ礁との共生が重要になっています。また、世界の熱帯、亜熱帯の国々において、サンゴ礁と開発行為との共生は大きな課題となっており、開発に伴う環境への影響を最小限にとどめるとともに、施設を建設した後に環境の回復を図ることは重要な視点であると考えます。那覇港等で行われている環境配慮の経験を多くの人々が共有し、日本や世界各地の同様な問題の解決を図ってほしいと思います。大自然に対する畏敬の念を持つこと、そして開発と環境との調整は永遠の課題であり、かけがえのない自然環境との共生を図って行くために、私たちは何をすべきか十分考えて行動する必要があると思います。

面接授業「サンゴとサンゴ礁の化学」 受講生 遠田 雄子／佐々木 麻保



5月30日、31日琉球大学名誉教授大森保先生の「サンゴとサンゴ礁の化学」の面接授業に参加しました。1日目、午前は、サンゴ礁化学基礎でサンゴが生き物であることを初めて知りました。午後の最後の時間は、実験室で

サンゴ礁の砂浜から採取したいくつかの砂を顕微鏡で見ました。初めて顕微鏡を使うので分からないことだらけでしたが、周りの方達が優しく教えてくださり、とても楽しい時間を過ごせました。

2日目は、午前の講義は、サンゴはストレスに敏感で27℃～28℃はサンゴ褐虫藻に最適な温度でそれより



1℃でも上がると、ストレス負荷になるということでもデリケートな生き物であることを学びました。午後には実験室でサンゴの骨格標本に触れて(感触はザラザラした感じでした)気に入ったサンゴをスケッチしました。

難しいところもありましたが、初めて実験にも参加出来たこと、普段話せない学生さん達とも話が出来て、学ぶ力も頂きました。次の面接授業でどんな出会いがあるか楽しみに学んでいきたいと思いました。(遠田雄子)

サンゴ礁がもたらす恵み、生態、地球環境との関わりを学んだ。地球上で全てのサンゴが焼失すると、地球は二酸化炭素に覆われて、生物は絶滅してしまう。サンゴが地球上で重要な役割を担っているのだと知ることができた。(佐々木麻保)



面接授業「海の動物の観察」

受講生 金増 涼子

6月7日と8日、横浜国立大学附属臨海環境センター(足柄下郡真鶴町)で、面接授業「海の動物の観察」が、主任講師、種田保穂客員教授、講師に横浜国立大学の菊池知彦教授、水井涼太講師により、行われた。(編集部)



種田保穂客員教授

山河・海共に近く自然豊かな環境で幼少期を過ごした為か、今ではその風景がどこか懐かしく感じられます。自然とはすっかり遠のきましたが、いくつかの節目を越え、これからの時間は自然と関わりのある暮らし向きを、と心に決め学習を続けています。今期、生物に関する科目を履修し、海の生物多様性について深海の熱水湧昇域で生物の数も種類も豊かであることを学習しましたが、実際に自分の目で多様性を確かめたことはなく、「海の動物の観察」2日間の体験学習に参加しました。



当日の天候曇り/最高気温

21℃。<午前>生物分類、生態系、真鶴湾の地形や環境、海岸生物の採取からリユースまで。また、岩場での注意事項について説明を受ける。

<午後>干潮時間13:30頃に合わせ、センターから徒歩ですぐの大久保海岸の磯で生物観察。軍手とヘラを使い、岩場でヒサラガイ、アメフラシ、岩の亀裂部分にはカメノテ、潮溜まりでカニ、ヤドカリ、ヒトデ、ウミウシ、波打ち際はウニ、ナマコなどそれ

ぞれ異なった生物を採取。その後、センターに戻り、先生方の指導の元、受講生で採取した生物を種別毎に分類し、その特徴や習性、形状の違いを確認し、顕微鏡で観察。私一人では採取不可能な多種の生物とイソカニダマシのような面白い生物やイワガニのハカマ内部に寄生するフクロムシなどを観察でき、磯の生物群の種数の豊かさを再確認する。



<夜>岩漁港へ行き、プランクトンネットでプランクトンを採取、ビーカーに移し、プランクトンの動きを肉眼で観察、次に調光に注意しながら波間を照らしメバルの群れを確認。センターに戻り、更に顕微鏡で渦鞭毛藻類や微小な生物の観察を続ける。

<2日目:午前>頭足類=イカの特徴、魚類の消化管・ヒレの特徴を学び、アジ・サンマの形状、ヒレの位置、消化管を取り出し内容物を観察した後、皆で調理し話し語り、2日間の学習を終える。

環境に依存して生きている動物にとり大切なことは①食べること②捕食者に食べられないこと③子孫を残すこと。現在、プラスチックチップが海の生態系に危険な影響を及ぼしています。生態系を思う時、海の動物の生存をかけた戦略は生活環境の変化に適応し、今に至ったことを学ぶと共に地球に生きる生物の一員として「海洋のリテラシー」に気づき、負の連鎖を断ち切り、守っていきたく強く感じました。種田先生、菊池先生、水井先生をはじめ、受講生の方々と共に学ぶ楽しさを共有し、学習の進め方や貴重な話しを伺うことができたことに感謝し、1歩ずつ前に進んでいきたいと思ひます。

環境に依存して生きている動物にとり大切なことは①食べること②捕食者に食べられないこと③子孫を残すこと。現在、プラスチックチップが海の生態系に危険な影響を及ぼしています。生態系を思う時、海の動物の生存をかけた戦略は生活環境の変化に適応し、今に至ったことを学ぶと共に地球に生きる生物の一員として「海洋のリテラシー」に気づき、負の連鎖を断ち切り、守っていきたく強く感じました。種田先生、菊池先生、水井先生をはじめ、受講生の方々と共に学ぶ楽しさを共有し、学習の進め方や貴重な話しを伺うことができたことに感謝し、1歩ずつ前に進んでいきたいと思ひます。



面接授業「愛について考える」

受講生 奥津 佐智代

4月25日と26日、杉田正樹先生の「愛について考える」の面接授業を受けました。

私は放送大学を二回卒業しました。そして、もう老いのとぼくちに居る現在、ランダムに好奇心の赴くままに学習し思索したいと思っていました。そうしましたら、事前の授業概要に、「受講生のみなさんと相談しながら、愛について、＜哲学対話＞をしてみたいと思います。」と書かれていて、間口の広い哲学授業のイメージを持ち選択しました。

授業レジュメは、①はじめに一なぜ愛が問題か？②ギリシャ哲学における愛ーソクラテス以前、プラトン、アリストテレス③キリスト教における愛ーエロスとアガペー④中性ヨーロッパにおける愛ーロマンチッククラブと「トリスタンとイゾルデ」⑤近代の愛ーパスカル、ヘーゲル、スタンダール⑥現代の愛⑦愛について何がなぜ問題か？⑧おわりに、でしたが、⑤まででした。

「＜哲学対話＞をしてみたい」との授業は、時に



応じて、受講生から質問や意見を述べる事が出来、笑い声の起きるものでした。先生は受講生をよく

見ていて、先生からもオープンに質問していました。私が前三列目で、渡邊二郎先生の御高著「自己を見つめる」を持っていたら、目の前までいらして「何の本？」と尋ねられたのには驚きました。先生の恩師は渡邊二郎先生だということでした。



杉田正樹客員教授

授業の始めの頃、受講生は「愛についてどう思うか」を小さなA6の紙に書きました。先生は、それをすべてコピーして配布し、感想や意見を述べられました。

②のギリシャ哲学のところで、先生が、プラトンとアリストテレスを比較し「アリストテレスが好き」とおっしゃったことが強く印象に残りました。先生は「プラトンはアテネのシティボーイ、頭が良くて理屈は立つ。アリストテレスはマケドニア出身の田舎者、ギリシャ土着の思想を持っている」と言い、プラトンの「饗宴」とアリストテレスの「ニコマコス倫理学」のプリントを配り解説しました。アリストテレスは「相手に好意をいただき、相手のために善きことを願う、顔と顔でニコリだよ。」「自分中心でない、他者と共にあることを言ってるんだ。」などと。私は、アリストテレスの愛の思想の地平が少し解った気がしました。アリストテレスが好きという先生が、受講生と積極的に対話し、小学生に哲学を教えているのが、結びついて少し解った気がしました。

でも、後日、レポートに、以前から読もうと思っていたアリストテレスの「詩学」について書こうとしましたが、一人では読み下せませんでした。面接授業の良さを改めて思いました。それでも、きっかけやプロセスが大事ですから、遅々とした読書ですが、これからも向き合っていこうと思いました。



ベートーベン「第九」を一緒に歌いませんか

神奈川「第九を楽しむ」会

放送大学南関東ブロックの7学習センター(神奈川、千葉、埼玉、文京、多摩、足立、渋谷)の協働プロジェクト「2017年3月ベートーベン第九のフル演奏会」を目指して練習が始まっています。

上記の学習センターでは、「第九を楽しむ」シリーズの面接授業で「第九」が持つ理論的側面を学んだり、合唱練習を行うほか、音楽指導者の先生が開講して下さる「ゼミ」で合唱の練習を積み重ねて、来年2016年8月からの文京学習センターでの合同合唱練習に移行する予定です。

神奈川学習センターでは、4月に小宮正安先生が面接授業「第九を楽しむ(社会・文化史編)」を2日間にわたり99名の学生に熱心に講義していただきました。5月からは、中嶋俊夫先生が合唱ゼミを月2回のペースで開き、50名の登録者に対し常時30数名の参加者を得て、練習を重ねています。

中嶋先生のゼミ開講に当たってのメッセージは次の通りです:

「マラソンに挑む人が、継続的なトレーニングと、それによって身につけた体力や技術を必要とするように、第九という大曲・難曲を歌うためには、計画的に練習を積むことが求められます。

ゼミでは発声の基礎から始め、イタリア歌曲やドイツ・リートをソロで歌える実力を養います。そのあと、第九の具体的な練習に入り、本番のゴールを目指します。」

毎回、ストレッチ体操から始まり、ハミング・発声練習・ドイツ語の発音練習と基礎的な練習をしっかりと行い、第九の譜面を使い始めたのは7月になってからです。合唱に参加を希望する方は、google検索で「放送大学神奈川合唱団」のホームページから入会登録をするか、学習センター窓口で申し込んでください。(7月中旬で50名が登録済)

《演奏会までの日程は次の通りです》

1. 演奏会: 2017年3月26日(日)午後2時開演 東京藝術大学奏楽堂
指揮:山本純ノ介千葉大学教授 オーケストラ:TGS(東京藝術大学ストリングス)
2. リハーサル:2017年3月17日(金)、24日(金)
3. 合唱全体練習:2016年8月から8回程度(文京学習センター)
4. 神奈川学習センターでの練習等
 - ①中嶋ゼミ:合唱練習(月2回程度、会費:1,000円/月)
 - ②面接授業:2016年度1学期
第九を楽しむ(語る):茂木一衛先生
第九を楽しむ(社会・文化史編):小宮正安先生
第九を楽しむ(合唱):中嶋俊夫先生
 - ③面接授業:2016年度第2学期(今後決定する。)

《プロジェクトに参加して指導して下さる先生方は次の通りです。(五十音順)》

奥村さゆり(東京藝術大学研究助手):ソプラノ、合唱指導
 国土潤一(東京学芸大学講師):テノール、合唱指導
 小宮正安(横浜国立大学准教授):ヨーロッパ文化史、ドイツ文学
 中嶋俊夫(横浜国立大学教授):声楽(テノール)、音楽教育学
 永原恵三(お茶の水女子大教授):音楽学、合唱指導
 宮野モモ子(放送大学千葉SC所長):声楽(ソプラノ)、音楽教育学
 茂木一衛(横浜国立大学教授):音楽学、合唱・オーケストラ指揮
 山本訓久(東京学芸大学教授):指揮、面接授業指揮法
 山本純ノ介(千葉大学教授):作曲、指揮、合唱指導
 横山和彦(東京学芸大学教授):声楽(テノール)、合唱指導

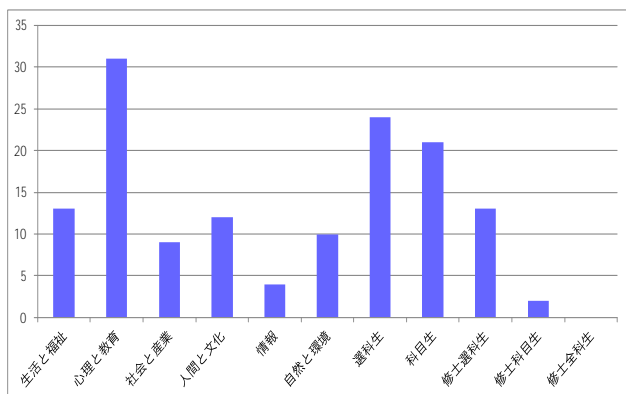


※写真は、中嶋先生のゼミ風景

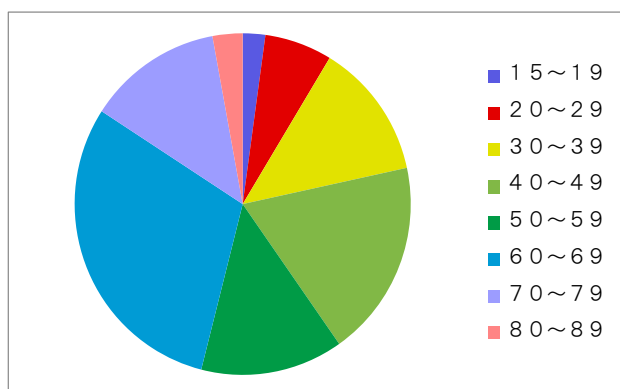
平成27年4月 学生生活に関するアンケート K-サポート機関紙編集チーム

4月5日(日)神奈川学習センターの入学者の集いには、新入生230名が参加、前年度同様のアンケートを実施し145名からの回答を得て回収率は、63%でした。

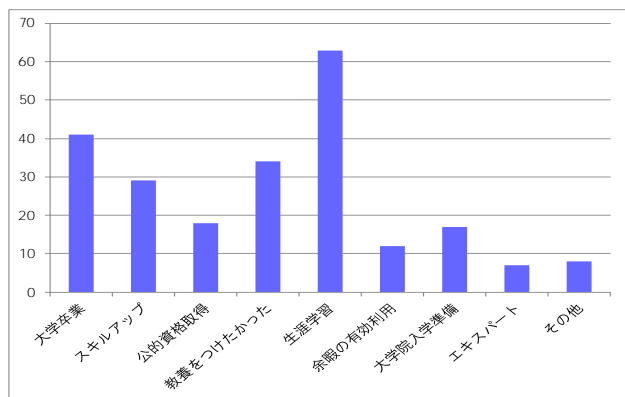
第1問は、学生種別(下図)です。全科生、選科生、科目生の割合は、63%、19%、17%で、昨年比べて全科生の割合が著しく多くなりました。コースでは相対的に心理と教育の割合が低下しました。



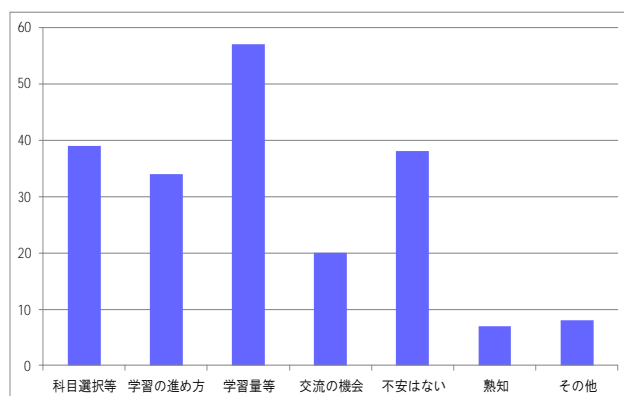
次に、年齢構成です。(下図)10代から80代まで年代の方がいます。60代以上の割合が大きくなりました。



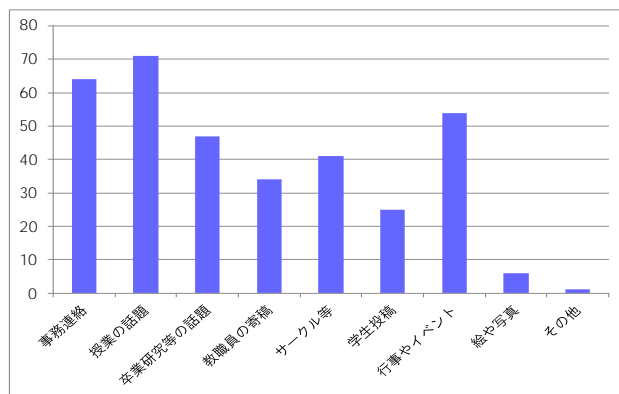
入学動機(下のグラフ)では、生涯学習をあげた方の突出がつつき、スキルアップをあげた方が減少しています。



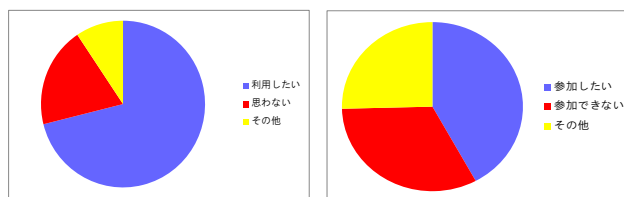
入学者が、どのようなことに不安を感じているかを聞いた質問です。例年より学習のすすめ方に、不安を感じる方が少なくなっているのが特徴です。



本誌、学習センターだよりに期待される記事内容は、初めて、授業関連がトップとなる一方、教職員の寄稿等上げる割合が、小さくなりました。



K-サポート学習相談とバス研修旅行について、利用/参加したいかについて聞きました。2/3の利用希望者、40%の参加希望者と、例年と同様の傾向でした



アンケート結果の一部に大きな変化が見られましたが、学生募集期間の延長により、入学者の一部に集いの案内が届けられず、例年より参加者が少なく参加者層が、異なっている可能性があります。

○自由記入欄(抜粋)

- ・パソコン初心者なのにオンライン授業を取り不安。
- ・外国語の高度な授業があると嬉しい。
- ・大学院進学や就職の情報を提供してほしい。
- ・無線LANを使えるようにしてほしい。
- ・卒業後に仕事等に役立つ経験談が聞きたい。
- ・卒業論文の書き方について相談したい。(同様3件)
- ・オリエンテーションのとき資料を映像で映してほしい、配付資料に順番を記載してほしい。(同様の、集いに関する改善意見計4件)

ゼミからのお知らせ

○神奈川学習センター開講ゼミ一覧

①客員教授開講ゼミ

教員	ゼミ名	開催日	直近の開催予定日	申込先・連絡先
浅野 幸弘	浅野ゼミ	原則第2木曜日	8月20日	yasano37@ynu.ac.jp
有馬 眞	地球科学ゼミ	原則月1回	8月11日	m-arima@ouj.ac.jp
杉田 正樹	哲学カフェ	原則第4土曜日	9月26日	msugita@kanto-gakuin.ac.jp
中嶋 俊夫	第九を楽しむ	原則月2回(土・日)	8月22日・29日	http://gassyoh.yumesora.net

②元客員教授開講ゼミ

教員	ゼミ名	開催日	直近の開催予定日	申込先・連絡先
藤原 一繪	植生研究会	原則第2木曜日	9月10日	syokusei@yakatsu.org
影井 清一郎	科学の散歩道研究会	原則第3土曜日	9月12日	kagei@ynu.ac.jp

③元放送大学教員開講ゼミ

教員(顧問)	ゼミ名	開催日	直近の開催予定日	申込先・連絡先
天川 晃	放送大学ガバナンス研究会	原則第2土曜日	8月29日～30日	j.kaz5529@gmail.com
柏倉 康夫	三無会	不定期開催	未定	miyako.f71417@jcom.zaq.ne.jp

(参考) 直近の開催予定日以後の開催予定日が決まっているゼミ

浅野ゼミ	9月10日、10月15日、11月12日、12月10日、 1月14日、2月18日、3月11日
------	--

研修旅行学習ノートから「STEEL HISTORY－西山弥太郎の英断－」(中)

平成26年度学生研修旅行の学習ノートから、笹木正明さんによる「STEEL HISTORY－西山弥太郎の英断－」を、3回にわたり掲載しています。

(2) 千葉製鉄所建設計画の申請

1950年(昭和25)11月、千葉製鉄所の建設計画(粗鋼年産100万トン)を通産省に提出した。資本金5億円の川鉄では、建設資金が大幅に不足であった。高炉新設の公表は大きな反響を起こした。一万(いちま)田(だ)日銀総裁が「千葉製鉄所にぺんぺん草をはやしてやる」言ったという話があった。一万田によれば、事実は文句があまり名文句だから、責任ある人がいったのではなく、記者仲間が上手い台詞を作って、当時の川鉄のおかれた環境をおもしろおかしく説明したのだらうとの事だった。専門家から二重投資批判(日本の高炉は当時37基で、稼働は12基)があったが、敗戦国日本は貿易立国を基本として、重化学工業を興すべきでその為には国内の

需要を満たし、世界の鉄鋼需要増加にも応ずる世界最新鋭の高炉を建設し「良質の鉄を廉価な価格」で生産する必要があると川鉄は主張。通産省と川鉄間で会議を経て1951年(昭和26)5月に再度計画書を提出した。建設資金は専門家7人による欧米視察の結果を踏まえ、より高度な技術を導入する為、272億7500万円に変更した。今度の計画書は建設計画を四期に分けて提出した。通産省は1953年(昭和28)2月、第一期分を承認した。借入金45億円の内19億円が第一期分で、日本開発銀行は10億円の融資を予定していた。1953年(昭和28)3月、日銀政策委員会で開銀融資可否について審議が行われた。1回目の会議では結論が得られず、鉄鋼連盟会長の意見を参考にして決める事になった。三鬼会長は①ここまで建設が進んだ以上、金融面から面倒を見てもらうしかない。②鉄鋼業合理化計画の27年度分に川鉄千葉計画が割り込むのは困る。別枠で願いたい。③しかし、スクラップ不足は将来の大勢であり、自

分も日本の鉄鋼業は原則として銑鋼一貫で行くべきと考える。一万田は政策委員会の承認を踏まえ、市中銀行の協調融資を進める旨融資幹旋部に指示した。8月8日、第一銀行が日銀当局に資料を提出し、開銀は10億円融資を決定した。

(3)メインバンク第一銀行の支援体制の確立

1953年(昭和28)6月17日、千葉製鉄所第一高炉の火入れ式が行われた。

日本経済はこの時期不振で企業の赤字幅が増大していた。鉄鋼各社の業績も悪化していた。おりしも千葉製鉄所は、建設が山場にかかり、資金需要もピークに達し、資金手当てが大問題となった。しかし、銀行はどれも進んで融資しようとはしない。日銀一万田尚登総裁は第一銀行酒井杏之助頭取に対して川鉄のメインバンクとして第一銀行の支援、チェック体制をどう確立するかの覚悟を聞いた。運転資

金は日銀の金を当てにせず、銀行の集めた金でやる事。「それで第一銀行はどうされるのですか。」「既に矢は弦を離れました。すでに30億円投入した。当行としては川鉄を見殺しにはできません。総力を挙げて応援します」。酒井は一万田に第一銀行から川鉄に人材派遣の意向を聞かれ、同意した。酒井は元神戸支店長で常務の大森尚則が川鉄会長として出向することを提案した。大森は元神戸支店勤務で兜町支店長岡田貢助と一緒にあれば了解と回答、岡田も同意した。西山は大森を会長として受け入れることを了承した。

これで第一銀行は本気で川鉄を支援する姿勢だと金融業界は納得した。1953年(昭和28)12月、第一銀行を幹事行とする市中銀行十二行等による、26億円の協調融資が成立した。この結果、川鉄は国内の資金調達の方法が開けた。

Kーサポートからのお知らせ

○学習相談チーム

Kーサポートの学習相談、2015年度第2学期は、10月17日から12月20日までの土曜日と日曜日、午後1時から午後3時50分の間、2階談話室の相談コーナーで行います。予約は不要です。

放送大学での学習に関して困っている点に限らせていただきますが、まずは気軽に何でも相談にきてください。

○地域連携チーム

神奈川学習センターウォーキング
「広重が見た金沢八景を、感じて歩こう」
10月24日(土) 午前10時 金沢八景駅集合
申し込みは9月1日から、インターネット及びFAXにて。詳しくは <http://walk.yumesora.net> をご覧ください。

○パソコンサポートチーム

・8月22日(土曜)13:00~16:30

「ホームページの利用ー科目登録の提出」
内容:初めてインターネットで科目登録する方向け講義とサポーターの操作支援
※神奈川学習センターへ申込み必要です(定員制、空若干名)。

※2学期のサポートは、10月開催予定です。

平成27年度神奈川学習センター「学生研修旅行」について

下記のとおり実施いたします。

CH27/10 第4号

研修テーマ: 宇田とイスラーム

研修目的: 国立天文台三鷹キャンパスを訪れて、通常立ち入ることができない研究施設や最新の観測装置・施設を見学して天文学の歴史や魅力について学び、中近東文化センターでは博物館に展示してある貴重な展示品や資料に触れ中近東の歴史や文化について理解を深める。

1. 日 時: 平成27年10月14日(水)8:30~17:50【雨天決行】
横浜駅西口天理ビル前 8:20集合、17:00解散(予定)
2. 研修場所: ①東京都三鷹市 国立天文台三鷹キャンパス
②東京都調布市 中近東文化センター博物館
3. 募集人数: 33名(応募者多数の場合は抽選)
4. 申込受付: 7月24日(金)~8月2日(日)(センター閉所日を除く)
神奈川学習センター窓口にて(窓口以外での受付はできません。)
5. 抽選結果: 抽選結果は8月13日(木)に当選番号をセンター掲示及び神奈川学習センターホームページ
(<http://www.nc.ouj.ac.jp/center/kannagawa/>)に掲載いたします。
6. 参加費: 当選者は8月13日(木)~8月27日(木)(閉所日を除く)の期間中に神奈川学習センター窓口で参加費をお支払いください。
参加費は195円(旅行傷害保険料のみ(税込み))です。
また、参加費以外に当日は昼食代が発生します。昼食代は個人での負担となります。
7. 研修指導: 池田龍彦所長・センター客員教授2名・Kーサポート(バス研修チーム)
8. その他: ①参加者には簡単な感想文及びアンケートを提出していただきます。
②交通移動手段として借り上げバスを利用します。
③国立天文台三鷹キャンパスでの見学コースには、数百メートル歩行する場所や階段、湿気などにより足場の悪い箇所があります。
④昼食は国立天文台三鷹キャンパス敷地内にあります。生協コスモス食堂を利用します。昼食代は個人での負担となります。
⑤「研修パンフレット」及び「諸注意等のお知らせ」は9月中旬に送付する予定です。

OUJ神奈川学習センターだより編集部

赤松、家田、伊藤、入江、遠田、笠井、吉川、木下、
宮崎、三国、和田
(50音順、以上、Kーサポート機関紙編集チーム)

垣谷(Kーサポート事務局)
宮崎(学習センター事務室)

学生サークルからのお知らせ

○うえるかむKanagawa

私達は英語を楽しみながら学んでいるサークルです。

☆例会は毎月第2、第4水曜日(試験月等は変更有り)

* Benny class (3クラス) 10:15~12:30

* English songs 13:15~13:30

* Group study(4グループ) 13:30~15:30

☆その他 うえるかむ名画座、ゲスト講演会等を開催。

問い合わせ 片野眞明 090-4714-8260

○韓国語同好会

★月例会 第2、第4土曜日

① 10:00~11:30 初級クラス

② 11:30~12:00 ミーティング(全員)

③ 12:00~13:30 中級クラス

④ 14:00~15:00 自主学习

(「韓国・朝鮮の歴史」ビデオ学習)

★講師 横浜国大大学院生 林恵園先生

★問い合わせ 神奈川サークル協議会のホームページからどうぞ。

<http://kcc-ouj.net/dantai/hanguo/>

(代表:斎藤)

○放大かながわレク・サークル

★パソコン部:個人のニーズに応じた学習。

学習日時:第2、第4木曜日 13時30分~15時30分。

場所:神奈川学習センター 実習室:申込制

★ウォーキング部:2ヶ月に1回、「東海道五十三次」

実施中。名所旧跡文化 施設等も対象

★その他観劇、観光、映画、美術鑑賞等。

上記の各種活動はいずれも自由参加。

—会員募集中(随時申込・受付)—

問合せ:島田 義治 Tel 090-3907-8384

E-mail simada.yosiharu@coral.plala.or.jp

○神奈川合唱団

楽しく一緒に唱いましょう。

今年も、3月21日の学位記授与式にNHKホールにて学歌を唱いました。発声法に特に力を入れた指導を受けています。「ふるさと」「もみじ」などの歌を唱っています。気軽に見学においで下さい。

場所:大岡地区センター(神奈川学習センターの向い側)

第1、第3水曜日 午後6時~8時30分

お問い合わせ

馬場 s.baba.36.08.20@docomo.ne.jp

高野 seiza_olion@docomo.ne.jp

○人間学研究会

〈毎月の例会発表〉毎月13:00より

★ 8月8日(土)「カナダを旅して」 大出鍋蔵さん

★ 10月3日(土)「フレームワーク思考のご案内」石井誠さん

★ 11月8日(日)「ビルマの豎琴について(仮)」石橋正彦さん

会員の寄稿による会誌「せせらぎ」を毎年発行。26号を10月に発行予定。

その他:遠足、演劇鑑賞、美術館訪問など。

★7月26、27日(日・月) 歌舞伎鑑賞 県青少年センターホール

問い合わせ:小林鋭子 tel:045-373-0679

E-mail: t7791aaanta@ybb.ne.jp

○資格取得研究会

看護・福祉分野を中心にキャリアアップや進学・就職を目指す集まりです。現在、大学卒を目指す看護師の方、看護、医療、福祉関係のキャリアアップと認定心理士を取られる方などがいます。内容は、例会(情報交換)と講演会の聴講、見学会など。

これからの例会予定

・8月22日(土) 16:00~ 第6講義室

・10月3日(土) 16:00~予定、講義室未定

会費:¥500(1年間)

ホームページ…<http://shikaku.yumesora.net>

お問い合わせ…080-5546-7913(はこぎき)

○ダンスサークル(社交ダンス)

場所:神奈川学習センター第7講義室
 曜日:第2・第火曜日 *第1・第3火曜日 自主練習
 時間:午後2時~4時 講師:菊島弘明・ユリ子
 会費:1か月 1500円

活動内容:社交ダンス(モダン、ラテン)の学習(ダンスパーティーで踊れるレベルに)

ダンスはスポーツです。健康増進(特に、姿勢が良くなる)、ストレス解消に、楽しく踊りませんか!! 人生がより明るくなります。不定期ですが、1泊での実習旅行も実施しています。初めての方も楽しく踊っています(初心者、歓迎!)

また、全科履修生の方は30時間のレッスンで、体育実技1単位を取得できます。
 連絡先:宮川京(代表)TEL:045-933-9753

○神奈川放友会

豊かで実りある学生生活を共有することを目的に、「学び」と「触れ合い」を柱とする幅広い活動を展開し、130余名の会員から強い支持を得ているサークルです。

☆学びの場の活動

○例会 平成27年8月8日(土)、神奈川学習センター第3講義室 第一部『講演会』“がんのお話” 湘南鎌倉総合病院外科部長 下山ライ先生
 第二部『座談会』“戦後70年に想う”-移り来し学び舎の風景-

☆触れ合いの場の活動

○泊研修旅行 平成27年9月11~12日(土)
 一日目は放送大学本部セミナー室で卒業研究発表、セミナーハウスに宿泊、二日目は、貸切バスで千葉県香取市佐原を訪ねる予定

☆毎月の活動:俳句の会、書に遊ぶ会、女性の会他
 詳しくはWebで、<http://kanagawa-hoyukai.jp>
 入会申込・問い合わせ先:山崎正之
info@kanagawa-hoyukai.jp

○中国語学習会

中国語は国連の公用語の一つ、世界最大の母語話者がいるだけでなく、既に欧米、アジア、アフリカ各国の中学、高校でも学ばれています。

☆学習日 原則、第1、第3日曜日
 10:00~12:00 初級終了程度 から中級へ。
 (告旭平先生)

13:00~15:00 発音を徹底的に学び、基本構文で早速会話を。(唐斌先生)

どちらにも出席でき、表現力、発信力を高めます。
 ☆問い合わせ 和田充弘
 tel:080-3552-2497 mail:snuf.708w@ezweb.ne.jp

神奈川同窓会だより

“行く所がある.会う人がいる”

そこは同窓会「弘明寺サロン」です

☆ ホームカミングデーの開催

9月5&6日フェスタの初日 [(9/5)は無料]

OBの方気楽に来場して下さい。

☆ 弘明寺サロン8月8日(土)「映画鑑賞会」

13:00~16:00「サウンド オブ ミュージック」

・9月19日サロン発表会「なぜいま「紙芝居」

・10月10日サロン報告会「サリン事件等被害者への後遺症ケア支援の活動」

☆企画行事 11月26日「クラシックルーズ鑑賞会」

HP:→<http://hatoh.net/>

お問い合わせ…045-333-4426 金田 保男

学生受け入れ・授業開始 30周年記念
第29回 フェスタ・ヨコハマ
 <放送大学神奈川学習センター学園祭>
 2015年9月5日(土)~9月6日(日)

『出会い・触れ合い・学び合い』

初日:9月5日(土)は、10:00~16:00「映画鑑賞会」「大岡政談」「ダンスパーティー」などのイベントが盛りだくさん。また、両日とも学生等の作品展示を行います。詳細はチラシをご覧ください。

2日目:9月6日(日) 10:00~11:45
 記念講演会:南 次郎 放送大学考査専門職(横浜市歌の作曲者の孫)

演題:『横浜市歌と作曲家 南 能菊(よしか)』

南 能菊は、小学唱歌の「村歌」や「村の朝と夜」などを作曲したと書かれていますが、その名前はあまり知られていません。理由は、当時の唯一の出版である『村歌の主題』が日本に存在しなかったため、南 能菊の名前が、その日本人の名前と異なる言葉で書かれていたことによるものと見られます。そのほか、南 能菊の出生地である横浜市が、明治42年に横浜市が「横浜市歌」を作曲した事情を詳しくご紹介したいと思います。

講師プロフィール
 明治から大正初期に活躍した作曲家、南 能菊の孫、南 能菊は、東京音楽学校(現・東京藝術大学音楽科)の助教授として、当時編纂が進んでいた『標準小学唱歌』の編纂にあたるため、横浜市に依頼されて、「横浜市歌」を作曲、文藝春秋外が歌譜をつける。昭和29年7月17日生まれ、60歳。元放送記者 慶應義塾大学法学部卒、放送大学法学部教授。昭和54年、日本放送協会に記者として採用され、報道局社会部、科学文化部などで主に科学技術や宇宙開発の取材を担当。

平成25年 定年退職
 現在、放送大学放送部にて専攻専門職として勤務

<写真上> : 東京音楽学校、当時時代の南 能菊
 <写真下> : 音楽雑誌小学唱歌家譜を執筆して台湾の音楽教育の普及に奔走していた当時の南 能菊 (中央: 南能菊、南次郎氏(孫))

引き続き
12:30~15:30 親睦交歓パーティー(立食パーティー)
 茶席、各サークル出店、俳句・川柳大会、大抽選会

参加券:1,000円 *9月6日行事の参加には「参加券」が必要です。
 当日券の用意はありません。事前にお求め下さい。
 入手方法:①神奈川学習センター1階ロビーにて次の日程で頒布します。
 (センター休館日を除く)
 7月24日(金)・7月25日(土) 9:45~17:00
 7月26日(日)~8月 2日(日) 9:30~19:00
 ②下記の参加団体に取り扱っています。

参加団体の申し込みは、神奈川同窓会、神奈川同窓会、神奈川同窓会、中国語学習会、人権学習会、放送大学神奈川同窓会、放送大学ダンスサークル、放送大学バレーボールサークル、KBCいそもの277、神奈川同窓会主催、放送大学神奈川サークル協議会 後援:放送大学神奈川学習センター
 お問い合わせ:0453-92-8037(神奈川サークル協議会事務局長:藤橋 雅夫)
 090-5545-7913(山崎正之:事務局長)

◆学習センターからのお知らせ

◆入学生の「面接授業の科目登録申請」概要

《新規10月入学生※1》

申請科目：面接授業科目（放送授業科目は出願時に登録済）

申請期間：平成27年8月15日（土）9時～8月31日（月）24時まで

申請方法：システムWAKABAへログインし科目登録申請（郵送申請不可）

※1：平成27年7月15日（水）までに出願し8月7日（金）までに学費納付者が対象
《継続10月入学生：学籍が平成27年度第1学期で終了（自主退学除く）する方。》

申請科目：放送授業科目、オンライン授業科目、面接授業科目（※2）

申請期間：平成27年8月15日（土）9時～8月31日（月）24時まで（※3）

申請方法：システムWAKABAへログインし出願後、科目登録申請（郵送申請不可）

※2：面接授業科目は、放送授業科目、オンライン授業科目登録後申請可能

※3：この期間以外の平成27年6月15日（月）～27年8月14日（金）及び9月1日（火）～20日（日）に出願した者は学期当初から面接授業の登録不可

【重要】学生募集要項（特にP28からP29）を必ず熟読・理解すること。

◆在学生（※1）の「科目登録申請」概要

申請科目：放送授業科目、オンライン授業科目、面接授業科目

申請期間：平成27年8月15日（土）9時～8月31日（月）24時まで

申請方法：システムWAKABAへログインし科目登録申請（※2）

※1：平成27年度第2学期にも引き続き学籍のある方（入学金支払不要の方）

※2：他に「科目登録申請票」郵送による申請方法があり、この方法の申請期間は、8月15日（土）～8月30日（日）大学本部必着

【重要】科目登録申請要項等を必ず熟読・理解すること。

◆特別聴講学生募集

放送大学（神奈川学習センター）では、横浜国立大学と相互に単位を互換する協定を締結し、双方向による単位互換を実施している。これにより、放送大学の学生（全科履修生）は、単位互換協定を締結している横浜国立大学の授業科目を履修することができ、修得した単位は、放送大学の単位として認定される。

平成27年度第2学期（後期）の募集の詳細内容は、神奈川学習センターHPやキャンパスネットワークホームページで確認すること。

※出願期間：平成27年8月15日（土）まで【期間厳守】

◆客員教授公開講演会

講師 種田保穂（放送大学客員教授・横浜国立大学名誉教授）

『ヒトはどのようにしてヒトになったのか』

日時 平成27年9月12日（土）13時～15時

場所 神奈川学習センター 受講方法 下記お問い合わせへお申込ください。

◆第2回先輩レクチャーシリーズ

講師 高橋昭善（教養学部生） 日時 平成27年10月11日（日）13時30分～

『定年までに4つの蓄えを一そして、その先へー』

場所 神奈川学習センター 受講方法 下記お問い合わせへお申込ください。

お問い合わせ：放送大学神奈川学習センター

電話045(710)1910（月曜日・祝日等を除く、9時10分～17時40分）